





## ボランティア活動

# 大災害に立ち向かう

古来から日本は、自然災害がいつ、どの地域で起きてもおかしくない環境下にあります。ことに近年は、地震や台風、大雨などによる大規模な災害が頻繁に起きようになりました。これらの災害に対し東北福祉大学は長年、学生と教職員が力を合わせて被災地・復興支援を行ってきました。1993年には全国の大学に先駆けて、ボランティア活動に対し単位認定するなどカリキュラム化し、その2年後の95年1月に起きた阪神・淡路大震災では、ボランティア学生たちが大きな役割を担いました。東北地方太平洋沿岸を中心に多くの被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災時は、地震発生翌日から「ボランティア会」を発足させ支援活動を開始。現在も多くの学生たちが被災市町村への復興支援を続けています。

支援活動にとどまらず、福祉、介護、医療などの要素を取り入れた防災士養成や救急救命士課程の設置、キャンパス近隣外国人住民対象の防災訓練、仙台市との協定に基づく学生消防団員や防災教育を行う学生ボランティア団体の活動など、全学挙げて防災・減災活動に取り組んでいます。

## 「令和元年台風19号」災害への支援活動

2019年10月の「令和元年台風19号」災害では、宮城県内で被災地域となった角田市、名取市、大郷町、丸森町、亶理町の5市町に10月18日からボランティアを派遣。12月までの約2カ月半で学生延べ268人、教職員延べ58人の計326人が被災民家等の泥かきや家具の運び出し等を行いました。



## 防災士、救急救命士の養成

防災士とは、NPO法人日本防災士機構が認定する資格で、災害時に地域の防災リーダーとして避難誘導や避難所運営補助などにあたります。本学に設置している防災士研修室では、学生と市民を対象に防災士養成講座を定期的に関講。2019年度は学内外で13回実施しました。

また、2015年度より「救急救命士課程」を設置し、被災地等での救助活動に貢献できる人材を育成しています。医療経営管理学科の学生が履修可能で、医学・医療分野など指定の科目に加え、医療機関実習や救急車同乗実習などさまざまな実習で学びます。



## 消防協定と学生消防団員

2018年7月に仙台市と「地域防災力の向上等に関する協定」を締結しました。本学は仙台市内の大学で唯一の救急救命士養成校であり、仙台市消防局とはこれまでも防災活動や避難訓練を通じて連携を図ってきました。協定に基づく「学生消防団員活動認定証」は、在学中1年以上継続的に仙台市の消防団員として活動を行った大学生が対象となっています。本学学生も2018年11月から青葉区などの団員として活動を開始、消防局とのさらなる緊密な連携が図られています。

## 地域福祉研究室による研修

大学が蓄積してきた多くの研究成果を活かし、地域の様々な福祉課題について具体的に対応していく活動等を支援するため、2015年4月に地域福祉研究室を開設。東日本大震災を教訓に、「災害派遣福祉チーム養成基礎研修」として災害時に避難所等にて福祉支援活動を担当する福祉チーム員を養成しています。

## 外国人住民を対象とした防災教室・訓練

2013年度文部科学省委託事業「学校施設の防災力強化プロジェクト」から派生した訓練で、仙台観光国際協会と毎年共催しています。第6回となった2019年度は、言語別グループに分かれて心肺蘇生法・AED(自動体外式除細動器)の操作法の体験や、消火訓練、倒壊家屋救助訓練、濃煙体験などで防災意識を高めました。



## 学生団体による防災・減災教育

2013年5月に設立した東北福祉大学防災士協議会 Team Bousaisiは、学生防災士を中心とした団体で、地域や学校などと連携し防災教育を行っています。また世界防災フォーラムでの出展等、イベントでの防災啓発も積極的に行っています。ラジオ番組にも出演し、市民の防災意識向上に寄与しています。

PASS (Positive Action Students Supporters) は学生考案の防災レンジャーによるヒーローショーを通じて防災・減災について学んでもらうなど、子どもたちから好評を得ています。地域での「防災運動会」にも多く参加しており、2018年に仙台若者アワード優秀賞を受賞しました。



# 東日本大震災と 本学のボランティア活動

2011年3月11日～2020年3月現在

15:08  
M7.4

**① 釜石市**

**診療所再開支援**

- 期間 2011年4月27日～30日
- 場所 釜石市内

**② 陸前高田市**

**避難所支援**

- 期間 2011年5月2日～5日
- 場所 陸前高田市内
- 内容 救援物資仕分け作業

15:06  
M6.5

**⑤ 登米市**

**高齢福祉仮設住宅支援**

- 期間 2012年5月19日～2014年10月
- 場所 登米市南方町
- 内容 話し相手など高齢・障がい被災者支援

**子ども支援**

- 期間 2017年8月2日、8日
- 場所 登米市内公民館3カ所
- 内容 防災教育

**⑥ 女川町**

**医療、看護、リハビリ、介護支援**

- 期間 2011年3月29日～4月22日
- 場所 牡鹿半島(女川町・石巻市鮎川地区)、網地島
- 内容 救援物資提供、避難高齢者の外傷手当、血圧測定・運動指導・徒手療法、助産婦教員による妊婦健診、児童・生徒の学習支援など

**物資支援**

- 期間 2011年5月4日
- 場所 女川第一小学校

**被災者支援**

- 期間 2011年7月6日
- 場所 女川町 女川総合体育館
- 内容 ジャパンゴルフツアー選手会ボランティア支援補助

**農業支援**

- 期間 2012年2月10日～2014年3月31日
- 場所 女川町新田
- 内容 「女川町復興ふれあい農園」づくりほか

**自立支援**

- 期間 2012年3月1日、19日
- 内容 女川町清水・総合運動公園地区  
仮設住宅で「孫の手」製作技術提供

2011.3.11  
14:46  
M9.0

**⑨ 松島町**

**避難所支援**

- 期間 2011年4月10日
- 場所 避難所(松島温水プール美遊)
- 内容 炊き出しなど

14:58  
M6.6

**⑬ 亘理町**

**介護支援**

- 期間 2011年4月22日
- 場所 亘理町内
- 内容 障がい者の介護及び入浴介助

14:51  
M6.8

**③ 気仙沼市**

**医療支援**

- 期間 2011年3月15日～27日
- 場所 気仙沼市避難所

**避難所生活者支援**

- 期間 2011年4月16日～9月11日
- 場所 気仙沼市松岩公民館

**グループホーム復旧支援**

- 期間 2011年4月20日
- 場所 気仙沼市内のグループホーム

**小学校支援**

- 期間 2011年8月1日～10月9日
- 場所 気仙沼小学校
- 内容 運動補助(プール、運動会など)

**④ 南三陸町**

**⑦ 石巻市**

**⑧ 東松島市**

**⑪ 七ヶ浜町**

**⑫ 多賀城市**

**⑧ 東松島市**

**グループホーム復旧支援**

- 期間 2011年4月22日
- 場所 東松島市内のグループホーム

**復興応援コンサート**

- 期間 2013年～ **継続中**
- 場所 東松島市内の仮設住宅及び災害公営住宅
- 内容 上野学園大学と心のケアコンサート実施

**被災者支援**

- 期間 2018年9月2日、2019年9月1日
- 場所 東松島市「あおい地区」
- 内容 清掃活動、住民交流会

**⑬ 山元町**

**被災・支援調査**

- 期間 2011年6月14日、16日、17日
- 場所 山元町内
- 内容 ボランティアニーズ調査、放射線量調査

**被災者支援**

- 期間 2011年6月27日～7月29日
- 場所 山元町ふるさと伝承館
- 内容 「思い出写真」の洗浄、展示

---

- 期間 2016年9月1日
- 場所 山元町「つばめの杜」
- 内容 清掃活動、住民交流会

14:54  
M6.1

**宮城県**

富谷市 13  
利府町 10  
仙台市 14  
名取市 15  
亘理町 16  
山元町 17

**福島県**

福島第一原子力発電所

<b>④ 南三陸町</b>
<b>医療支援</b>
○期間 2011年3月15日～27日 ○場所 南三陸町避難所
<b>施設支援</b>
○期間 2011年3月29日 ○場所 南三陸町 登米市 ○内容 南三陸町小中学校引っ越し手伝い
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年4月10日～8月6日 ○場所 志津川町内 ○内容 支援ニーズ調査、支援物資提供、遺留品整理・公開所開設補助、被災家屋支援（泥かき、家財道具運搬など）
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 南三陸町避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>被災者支援</b>
○期間 2011年5月28日～6月4日 ○場所 南三陸町入谷（旧入谷小学校） ○内容 「思い出写真」展示会場の受付、誘導ほか
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年7月15日～8月6日 ○場所 南三陸町ホテル観洋避難所 ○内容 運営補助、配膳、託児所支援
<b>いきがづくり支援</b>
○期間 2011年8月8日～12月23日 ○場所 南三陸町入谷（旧入谷小学校） ○内容 復興多幸（タク）文鎮づくり
<b>地域復興センター設置</b>
○期間 2011年9月13日～2012年3月末 ○場所 南三陸町入谷 ○内容 復興タク作成、サロン運営、災害調査研究
<b>地域振興支援</b>
○期間 2012年2月11日～3月31日 ○場所 旧合同庁舎跡地 ○支援内容 復興コンテナ名店街オープンセレモニー補助、販売、食器洗い、商品仕分け、事務 ○他大学受入（駒沢女子大学）
<b>高齢者福祉仮設住宅支援</b>
○期間 2012年6月17日～2016年3月 ○場所 南三陸町入谷 ○内容 話し相手など高齢・障がい被災者支援
<b>子ども支援</b>
○期間 2016年8月～10月 ○場所 南三陸町ポータルセンター ○内容 防災教育
<b>被災地支援</b>
○期間 2016年8月～ <b>継続中</b> ○場所 南三陸町歌津田の浦漁港 ○内容 「海の運動会」運営ボランティア
<b>⑩ 利府町</b>
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年4月11日 ○場所 利府町災害ボランティアセンター ○内容 センター機能強化

 2011年3月11日の本震震源

 本震後約20分の東北地方沿岸での主な余震震源

<b>⑦ 石巻市</b>
<b>医療支援</b>
○期間 2011年3月15日～27日 ○場所 石巻市避難所
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年3月29日～4月22日 ○場所 石巻市内 ○内容 物資提供・仕分け、仙台間ボランティアバス送迎、ボランティアコーディネート、被災家屋支援など
<b>医療、看護、リハビリ、介護支援</b>
○期間 2011年3月29日～4月22日 ○場所 牡鹿半島（女川町・石巻市鮎川地区）、網地島
<b>避難所運営補助</b>
○期間 2011年4月12日～20日 ○場所 石巻市飯野川避難所
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 石巻市避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>医療看護班活動記録入力補助</b>
○期間 2011年4月23日～5月8日 ○場所 石巻赤十字病院
<b>介護支援</b>
○期間 2011年4月22日 ○場所 石巻市内 ○内容 障がい者の介護及び入浴介助
<b>被災者支援</b>
○期間 2011年6月18日 ○場所 石巻市雄勝地区 ○内容 卒喪忌（百箇日法要）の参列、炊き出し
<b>健康支援</b>
○期間 2011年11月5日～6日、26日 ○場所 網地浜公民館
<b>高齢者いきがづくり支援</b>
○期間 2011年12月14日～16日 ○場所 鮎川町、網地島 ○内容 「孫の手」完成品贈呈
<b>復興応援コンサート</b>
○期間 2013年～2015年 ○場所 石巻市内の仮設住宅及び災害公営住宅 ○内容 上野学園大学と心のケアコンサート実施
<b>島おこし支援活動</b>
○期間 2016年12月20日～ <b>継続中</b> ○場所 網地島 ○内容 公園整備、オリーブの木への支柱設置など
<b>復興支援</b>
○期間 2019年8月～9月 ○場所 石巻市内、網地島 ○内容 リボンアートフェスティバル展示補助

<b>⑫ 多賀城市</b>
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 多賀城市避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>健康支援</b>
○期間 2011年4月30日 ○場所 多賀城市避難所 ○内容 避難所での楽器演奏、体操指導など

<b>⑬ 富谷町（現・富谷市）</b>
<b>医薬品仕分け補助</b>
○期間 2011年3月26日～4月9日 ○場所 東北自治総合研修センター ○内容 医薬品の荷降ろし、仕分け

<b>⑪ 七ヶ浜町</b>
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 七ヶ浜町避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
=====
○期間 2011年4月30日 ○場所 七ヶ浜町避難所 ○内容 避難所での楽器演奏、体操指導など
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年6月3日～10月28日 ○場所 七ヶ浜町生涯学習センター ○内容 運営補助

<b>⑭ 仙台市</b>
<b>地域支援</b>
○期間 2011年3月12日～17日 ○場所 国見小学校 ○内容 児童の遊び相手、昼・夕食の炊き出しと配給、避難所内の清掃・パトロールなど
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年3月17日～4月30日 ○場所 仙台市災害ボランティアセンター ○内容 スタッフとして活動
<b>施設、子ども支援</b>
○期間 2011年4月10日 ○場所 若切児童館 ○内容 絵本、遊具などの片付け、整理
<b>農業支援</b>
○期間 2013年～2015年 ○場所 若林区荒浜地区 ○内容 TTK 三大学連携による被災農家支援
<b>被災地復興支援</b>
○期間 2017年4月22日 ○場所 若林区荒浜地区 ○内容 「四季の森」植樹会で広葉樹など植樹
<b>被災者支援</b>
○期間 2017年5月27日 ○場所 青葉区霊屋下災害公営住宅 ○内容 アカペラサークル「MUSICOM」による交流イベント「ふれあい喫茶」

<b>⑮ 名取市</b>
<b>避難所、子ども支援</b>
○期間 2011年4月7日～6月30日 ○場所 名取市内避難所7カ所 ○内容 仮設住宅引越支援、児童・生徒学習支援他
<b>医療、看護、リハビリ、介護支援</b>
○期間 2011年4月15日～2017年3月末 ○場所 名取市内の仮設住宅及び災害公営住宅
<b>子ども支援</b>
○期間 2011年8月31日～2015年3月31日 ○場所 名取市美田園仮設住宅 ○内容 学習支援、遊び・相談相手
<b>被災者支援</b>
○期間 2012年～ <b>継続中</b> ○場所 閑上小学校、名取市役所 ○内容 「キャンドルナイトin閑上」の参加、補助など
<b>復興応援コンサート</b>
○期間 2013年～ <b>継続中</b> ○場所 名取市内の仮設住宅及び災害公営住宅
<b>ナタネによる東北復興プロジェクト</b>
○期間 2014年～2019年9月30日 ○内容 菜の花植栽による養蜂とナタネ油製造など



## 地域共創

# 自然と地域に学ぶ

### 網地島アドベンチャー「遊学かがやき隊」

網地島アドベンチャー「遊学かがやき隊」と銘打った事業が、2019年度の公益財団法人日本離島センター「離島人材育成基金助成事業」に採択されました。事業の目的は石巻市網地島を舞台に①本学の建学の精神「行学一如」にならい、遊んで学べる島をイメージした「遊学一如」を掲げ、網地島の魅力を発信し、島の輝き（活性化）を取り戻す活動を行うこと②豊かな自然の恵みを受けながら「厳しい環境の中でたくましく生きる力を育む」こと。

「磯遊び・創作活動・野外炊飯等」による自然体験学習に、本学学生19人、教職員5人、仙台市と石巻市内の小学生6人、高大連携校の東北高校から2人の計32人が参加。学生が自ら地域共創のあり方を考え実行した1泊2日の事業は無事終了し、参加した小学生、高校生から「魚釣りができて楽しかった。みんなと知り合えてよかった」「さまざまな人と交流ができてうれしかった」との感想が寄せられました。



## 被災地の子ども支援活動

女性ロックバンド「プリンセス プリンセス」の被災地復興支援寄付金を基に、2014年から2017年3月まで行われた「子ども支援プロジェクト」を継承。活動の1つである日帰り自然体験プログラム「島であそべんちやー IN野々島」は「塩竈市学力向上プラン(第4次:2017~2019年度)での「活躍と交流」と連携した活動となりました。自然豊かな島で小学生と学生がともに行動し「社会をたくましく生き抜く力」を磨くこと、双方で学び合うことを主目的とし、2019年9月に第6回目を開催。塩竈市内の6つの小学校から小学4年生28人、本学学生73人の計101人が参加しました。



## 利府町との連携協力

学生の柔軟なアイデアを生かした効果的な事業推進を図ること、大学の教育資源を提供し相互の事業効果を高めることを目的に2018年7月、宮城県利府町と「連携協力に関する協定」を締結しました。2019年6月に学生参加の防災訓練を実施。また同年11月には、前年に続き商業施設での「まちかど保健室」で「予防福祉健康相談コーナー」を設置し、保健看護学科・医療経営管理学科の学生たちが血圧測定などを行いました。子どもの居場所づくり事業支援や、町内高齢者の集いに落語研究会学生が参加するなど、多岐にわたる協定事業に大学全体で取り組んでいます。



## 大学指定団体「まごのてくらぶ」

大学指定団体「まごのてくらぶ」は、2010年4月に締結した国見地区連合町内会との相互支援協定に基づき、同年5月に学生・教職員・地域役員などで発足。2011年には地域共創推進に関する協定により青葉区も加わりました。国見キャンパス、ステーションキャンパス周辺を地域共創の場とし、辛いところを掻く「孫の手」役となって、お手伝い(支援)を行っています。大崎八幡宮での例大祭や松焚祭といった伝統文化継承活動、キャンパス周辺地域の清掃や見守り支援活動のほか、青葉区はもとより、東口キャンパスのある宮城野区でもまちづくり事業に参画し、活動の場を広げています。



## 2019年締結の自治体・団体との主な協定

### 石巻市 包括連携協定

それぞれの持つ人材、知識、情報などの資源を活用して地域の発展と人材の育成を図ることが目的で、内容は①地域の発展②大学及び地域の人材育成③学術・学際など。

### 塩竈市 包括的連携協定

相互協力により地域の発展と人材の育成を図り、①介護予防②健康増進③離島振興の3つの柱を基本としています。

### 秋田県 連携と協力に関する協定

秋田県の地域福祉の推進や災害時の福祉支援体制の構築、秋田県出身の学生を中心にAターン(秋田県へのUターン・Iターン・Jターンの総称)の促進を図ります。

### 鹿児島県宇検村 包括連携に関する協定

陸上競技部やハンドボール部、保育士・幼稚園課程のゼミ学生が訪れるなど長年本学と関係のある地域の発展と、大学及び地域の人材育成が目的。

### 宮城刑務所 共同研究、地域貢献及び人材育成に関する包括的連携協定

相互協力し、高齢受刑者の処遇、再犯防止・社会復帰の推進、地域社会の発展及び人材育成への寄与が目的。刑事施設と大学の高齢受刑者に特化した協定締結は全国初。

# 教員・ゼミによる活動

地域共創活動は大学全体としてだけでなく、教員やゼミ学生による各種支援等を通してなされています。活動により、次世代の担い手づくりも目的にしています。ここでは一例を紹介します。

## 地域の居場所「子ども食堂」の活動支援

子どもの居場所づくり、学習支援、見守りを目的とした「子ども食堂」が仙台でも数多く開催されるようになりました。社会福祉学科の村山くみ講師やゼミの学生たちが、国見の『ほっと☆国見』、長町の『おりぎの食卓』の活動を支援しています。

夕食までの時間は宿題をしたり遊んだり。夕食は孤食になりがちな高齢者と子どもとスタッフ・学生がいっしょに食卓を囲み、年齢に応じたお手伝いも行います。地域のなかの支え合いのネットワークをつくるうとする試みです。



## 地域共生社会の担い手づくり

高齢化が進む地域では、福祉専門職によるサービスの充実だけでなく、地域の支え合い、見守り合いなどが安心した暮らしにつながります。このような地域共生社会の担い手として、宮城県では生活支援コーディネーターの養成研修を行っています。そこに産業福祉マネジメント学科の高橋誠一教授がかかわっています。

高橋教授は他にもNPO法人の理事として、地域住民が利用しやすい高齢者施設を実践したり、宮城県介護人材確保の取組として、県内全ての中学生に介護の仕事の魅力を高める「ケア・ヒーローズ」の動画や冊子の作成協力を行い、地域共生社会づくりに貢献しています。

## バリアフリーな街づくり・人づくり

国連・障害者権利条約の批准にともない、一層のバリアフリーで差別のない社会づくりが求められています。社会福祉学科の阿部一彦教授は、日本障害フォーラムの代表として、また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の評価会議委員として、「心のバリアフリー」「ユニバーサルデザインの街づくり」の推進のために全国的な活動をしています。地域でも、仙台市障害者保健福祉計画の策定などにかかわっています。

## 不登校を減らす取組への学生参加

いじめ・不登校への対応には、学校全体がチームとして取り組む体制が求められています。福祉心理学科の中村恵子准教授は、宮城



県内の小中学校で、学校カウンセリング技法をいかした問題解決に努めたり、別室登校での学習や仲間づくり支援のサポーターとしてゼミ生を派遣したりして、不登校の児童・生徒の減少に貢献しています。

## ゼミ・学科による学習支援

教育学科の三浦和美教授、伊勢恵准教授のゼミを中心に、土曜日や夏休みを利用し小学生対象の教育プログラム「TFU子ども塾」を実施。英語やプログラミング、新聞を用いた言葉の学び、夏祭りイベント、短剣道教室など多岐にわたる内容を学生とともに行うもので、2019年度は全11回実施しました。

また同学科では、中学生を対象にした学習支援活動として、サマースクールなども開講しています。

# 主な学生ボランティアサークルと活動内容

「困っている人を助きたい」「地域の手助けをしたい」と考える学生が多い本学には、さまざまなボランティアサークルがあります。



## 地域共創系サークル

### ●ミニモリサポーターズ

展示会・講習会・講演会・研修会などさまざまな運営サポートを行う。またギャラリーで市民対象の自主企画も開催。

### ●けやきクラブ

コンサートや学会、研究会、地域イベント等の打合せ段階から運営に携わり、大学と協働し舞台を創り上げる実学サークル。

### ●地域安心安全ボランティアTeam Zero

地域の犯罪・交通事故ゼロをめざし、地域連携型防犯活動や交通安全運動、ナイトパトロールなどに力を入れる。

### ●環境サークル-EVOL-

木の苗を育て植樹祭への出荷など、エコに関する活動を行う。

### ●まごのてくらぶ ※7ページ参照

## 防災減災系サークル

### ●Team Bousaisi

※3ページ参照

### ●PASS (Positive Action Students Supporters)

※3ページ参照



### ●救命ボランティアサークル FAST

市民ができる一次救命を学び、多くの一般市民の方に教え、普及させることを目的として活動する。週1回の定例会で講師を招いて学習するなど、救命に関する知識や技術を学生同士で共有し合う。

## 学習支援系サークル

### ●社会教育研究会こっぺぱん

児童館や小学校の行事等への協力を通じ、教育の現状の理解を深め、豊かな人間形成を図ることを目的とし活動する。

### ●匠民 ~TAKUMIN~

ものづくりを通して子どもたちの豊かな感性を育み、将来の夢や今後の目標につながるような支援を行う。

### ●ソーシャルスキルトレーニングの会ひまわり

発達障害のある小学生から高校生までの発達段階に応じて獲得すべきスキルを習得させることを目的とし活動している。

## その他の社会貢献系サークル

### ●青葉区 BBS 会

非行や不登校に陥った青少年を対象として活動を行い、非行防止・更生の手助けを目的としている。

### ●ふたばクルーズ

仙台市内の児童館を訪問し、子どもたちの健全育成へのサポート活動を行う。

### ●ボランティアサークル天使村

乳児から小学生までの子どもたちを対象とした施設を中心にボランティア活動を行っている。

### ●ハンディスポーツアドバンスチーム

障害者スポーツ大会などの運営ボランティアや、障害者スポーツの普及活動を行う。

### ●学生サークル「ジャグリコ」

ジャグリングを通じ地域と交流。子どもへの体験教室等で、意欲の触発や自己表現の一助となる。

### ●ふぁみりあ

親子のかかわりに焦点を当てたイベントを通じ、皆で支え合えることができる地域社会を目指す。

### ●Genki とどけ隊

子どもから高齢者までを対象に、創作舞踊や運動を通して元気を届ける活動を行う。

### ●おいまわしセツルメント

子どもたちとの遊びや行事の企画を通じ、地域の交流の場を設けることを目的としている。

### ●仙台天使園ちっちゃな手

児童養護施設の子どもの遊びを通じ、社会性を身に付ける手助けをすることを目的に活動する。

### ●アカペラサークル MUSICOM

サークル内の「ボランペラ」では仮設住宅等でアカペラを披露、歌を通じ地域との交流を深める。

### ●老いを見つめる会こまくさ

特別養護老人ホーム訪問を通じて、高齢者福祉の理解を深めることを目的とし活動する。

### ●学内手話普及サークル Smile

聴覚障害者との交流を通じ、ろうの理解、手話の普及や知識を深めることを目的とし活動する。

### ●宮城こもれ陽ボランティアサークル

入院中の筋ジストロフィーの患者さんを訪問し、ニーズに応えるボランティア活動を行う。

### ●そらクレフレンズクラブ

親子パフォーマンスグループ「そらとぶクレヨン」の公演活動を支援し、創造型ボランティアを行う。

### ●小さな人形劇の会ペペ

人形劇を通して外部施設で障害のある方、小さな子どもたちと笑顔で楽しく接している。

### ●BEAUTY' S

施設やお祭り等でハンドマッサージやほっとケア、ネイルを行う。依頼があれば、その都度対応。

### ●ストリートチルドレン芸術祭

世界の子どもたちが安心して暮らせる環境づくりのための支援。主に、カレンダーの作成・販売等。

### ●知的障害者支援サークルそら

知的障害者施設を訪問し、利用者さんに楽しんでもらえるような季節の行事を企画運営している。



# 地域に根ざした人材育成

## 高い東北(地元)就職率とキャリア教育・支援

2019年度全国大学生の就職内定率は98.0%と高水準を維持する中、本学学生の就職内定率は前年度より0.5ポイント上回り、99.0%と過去最高の数字を記録しました。また、勤務地別では、宮城県を中心とした東北地区で7割以上を占めており、地方創生の役割を担っています。本学では、就業力を身につけるための教育プログラムと将来への歩みを確実に進められるようキャリア支援を行っています。

キャリア教育プログラムの最大の特徴は、リエゾン(「つなぐ」という意味)型のプログラムとなっている点です。1～4年生までが継続的に繋がる「演習・実践型リエゾン」(リエゾンゼミとキャリアデザイン・インターンシップ)を中心に、キャリアセンター主催の各種講座・セミナー等を軸とする「講義・実践型リエゾン」と学外活動を中心とした「実践中心型リエゾン」から構成されています。



2019年 キャリアカフェの様子

## インターンシップを通してのキャリア形成

大学でインターンシップを行う際には、文部科学省より求められている「6つの要素(就業体験・正規の教育課程・事前事後指導・教育的効果・企業と協働・5日間以上)」を実施していくことが推奨されます。本学ではそのすべてを取り入れた教育的効果の高いインターンシップを目指しています。特に、入学した初年次から始まる本学独自のキャリアデザイン科目との組み合わせで、自己を知り、主体性を育み、様々な業界や業種を知ること等から、自身のキャリア形成を高めていきます。また、そのような中で、特に大学仲介型のインターンシップは、受け皿となる地元企業や事業所と連携を結び相互理解の下、学生の教育や就職支援へと繋いでいます。

### 【TFUパートナーズ制度とは】

大学と事業所(企業・各種法人・行政機関・各種団体など)の連携により、学生と事業所の相互理解を深め、職業選択や「社会人基礎力」の育成を支援する取り組みです。パートナーズに入会した事業所と相互的な信頼、協力の下、インターンシップを行っていただくことで実践を通して学生の深い学びに繋がるように努めています。また、地元の事業所の魅力に気づき、双方が出会える機会を増やすことで、学生の社会性も育まれることを期待します。

## キャリアカフェと学生団体

TFUパートナーズ会員の事業所に対し学内で、“誰でも” “いつでも” 社会人と話すことができる空間「キャリアカフェ」を行っています。卒業生や採用担当者を招き、学生との交流の場、学生が働くことについて考える場としています。この運営に携わる学生団体「キャリアカフェクラブ」が2019年に発足。カフェの企画や会員事業所取材し、大学ホームページやSNSで情報発信を行っています。



2019年 キャリアカフェクラブメンバー

## 産学官連携

# 先端を行く

産学官連携等での研究開発や  
社会貢献活動も活発に行われています。

## 「消防 × 学生」全国初の点検アプリ

情報福祉マネジメント学科・大内真弓准教授のゼミ学生4人が、「地域消防力の向上等に関する協定」を締結する仙台市消防局と連携し消火器・誘導標識点検アプリ『KIKATTO (キカット)』を共同開発しました。主に集合住宅の消火器などの点検報告提出率の低迷打開が目的。学生たちは学びの特色を生かし、平易な言葉や文字サイズ、色覚障がい者に対応したデザインにも注力し、点検だけでなく報告書作成もできるアプリを約1年かけて完成、2019年11月1日から運用を開始しました。消防と大学によるアプリ開発は全国初で、消火器だけでなく誘導標識点検を含めたアプリも全国初となりました。



郡仙台市長、仙台市消防局の方々に前にプレゼンを行う学生たち



## 関東以北の大学初の「おふる部」入部

2020年1月、㈱ノーリツ、仙台市と『「おふる部」に関する連携協定』を締結しました。協定の目的は、入浴を通して市民の健やかな生活を共に創造し、水道水の魅力に関する情報発信等の取り組み(おふる部)を協力して行っていくこと。関東以北の自治体、大学の“入部”は初めてのこと。福祉心理学科、保健看護学科のゼミ活動の一部から取り組む方向で、学生たちがSNSでのおふるの魅力や効能、健康やリラクゼーションに関する記事を作成し発信します。おふるをテーマとしたイベント等も仙台市水道局と協力して行う予定です。

## サイバー防犯ボランティア

宮城県警察本部から、情報福祉マネジメント学科学学生60人が「サイバー防犯ボランティア」に委嘱されています。サイバー防犯ボランティアは、宮城県内では一般、大学生と4団体が参加、インターネット上に氾濫する違法・有害情報を発見し警察に通報する活動を行います。2019年は通報1078件、投稿の削除851件と過去最多。学生の力が、犯罪の芽を摘むことに貢献しています。



# 時代に寄り添う

日本の認知症患者は約500万人に上るといわれ、患者の徘徊による行方不明や事故が相次ぐなど問題化しています。2015年1月の厚生労働省発表によれば、2025年には730万人へ増加、65歳以上の5人に1人が認知症を発症すると推計。予備群である軽度認知障害の人を含めれば、1,300万人を超える予想もなされています。深刻化する一方の超高齢社会の問題に対し、本学は早くから向き合ってきました。

## 仙台市との協定に基づく支援者育成、認知症カフェ

認知症の人を支援する専門職の育成などを目的に2014年12月、仙台市と「認知症対策の推進に関する協定」を締結。同年から教職員、学生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行い、翌2015年度から1年生に必修化し、現在は通学生全員がサポーター資格を持ちます。学生が市民を対象に同講座を主催するなど、地域への普及活動を行っています。

また協定に基づき、地域の集いの場創出として「認知症カフェ」を開設。発祥地のオランダはじめ先進国で調査研究を行ってきた研究員の監修のもと、学内や関連施設等で年間約50回開催しています。

※認知症サポーターとは、NPO法人「地域ケア政策ネットワーク全国キャラバン・メイト連絡協議会」が実施する「認知症サポーターキャラバン事業」におけるサポーター養成講座を受講・修了した人を称する名称です。サポーターは目印となる「オレンジリング」を渡され、正しい理解のもと、認知症の人や家族を温かく見守る応援者となります。

## 実学臨床教育と認知症ケア准専門士資格

2002年度より本学では、関連福祉施設での実習と講義など大学における学びを有機的に結び付ける教育プログラム「実学臨床教育」により即戦力養成を行っています。履修生は2018年度から、質の高い福祉人材輩出を目的に一般社団法人日本認知症ケア学会が認定を開始した「認知症ケア准専門士」試験にもチャレンジしています。



## ゼミ・学生による「高齢者見守り支援AIシステム」開発

情報福祉マネジメント学科の大内誠研究室AI研究グループでは、「高齢者見守り支援AIシステム」の開発に着手しています。高齢者福祉施設の個室は見守りシステムが充実している一方、共有スペースではセンサー等での発見が難しいことに着目。利用者の事故防止と職員の負担減を目的に、共有ルームを見渡すことができるカメラとAI技術を用いて高齢者の行動を予測、転倒や転落をリアルタイムで防止するシステム開発を、関連福祉法人と連携しながら進めています。研究概要は2018年度、ITをテーマとしたビジネスコンテスト「X-Teck Innovation 2018(クロステックイノベーション)」で「NTTデータ賞」に選出されています。



## 附属病院せんだんホスピタル 「認知症疾患医療センター」

附属病院せんだんホスピタルは2016年8月、仙台市の指定を受け認知症疾患医療センター（地域型）を開設しました。認知症疾患に関する早期診断と入院治療等の対応や、認知症に関する相談など、患者と家族が住み慣れた地域で安心して暮らせる支援を目的としています。



## 関連法人施設 「認知症介護研究・研修仙台センター」

本学関連社会福祉法人東北福祉会「認知症介護研究・研修センター」は、日本の認知症介護に関する研究・研修の中核的機関で、全国3カ所（東京・愛知県大府・仙台）のセンターの1つとして2001年に設置されました。介護研究活動を展開する学術センター機能と、北海道・東北・四国・中国地方の拠点として認知症介護実務者・指導者研修を担う研修センター機能を有しています。



## 関連福祉施設での教育と福祉サービスの提供

学生の実践の場でもある関連福祉施設の介護老人保健施設や老人ホームなどでは、地域の方々にサービスを提供しています。現在全国的に行われている認知症の利用者を対象とした少人数生活空間「ユニットケア」などは、関連福祉施設が先行して実践した事業が参考とされています。

## 本学関連法人による主な福祉施設と事業

介護老人保健施設

### せんだんの丘（仙台市）



多職種連携で『在宅老健』を実践＋地域包括ケアでひと・まちづくり

- ショートステイ
- 通所リハビリ
- 訪問看護・リハビリ
- 居宅介護支援
- 日常生活支援総合事業 等

### せんだんの杜（仙台市）



住み慣れた地域で、家族・近隣・友人関係を保ちながら生活できる施設

- 特別養護老人ホーム
- ショートステイ
- ケアハウス
- 訪問介護
- 放課後ケア
- 保育園 等

### せんだんの杜ものう（石巻市）



「わが家」にいるような雰囲気有味わえる介護付きの住宅群

- 特別養護老人ホーム
- ショートステイ
- ケアハウス
- 訪問介護
- 居宅介護支援 等

### せんだんの里（仙台市）



施設全体がひとつのコミュニティー、個々が自分のペースですごせる施設

- 特別養護老人ホーム
- ショートステイ
- デイサービス
- グループホーム
- 居宅介護支援 等

### せんだんの館（仙台市）



地域のコミュニティーセンター機能を備えた北欧型福祉施設

- 特別養護老人ホーム
- ショートステイ
- デイサービス
- 居宅介護支援 等

# 市民と大学をつなぐ

東北福祉大学では、子育てや発達支援などを行う支援室や研究室、相談室を複数設置し、地域・一般の方たちに開放しています。また、教員も学外で多岐にわたる活動を展開、多様化し複雑化する社会で生じる様々な悩みの解決をサポート。また、仙台駅東口キャンパスを中心に、社会人、市民が学ぶ機会を提供しています。ここでは一例を紹介します。

## 発達障がい児の支援と保護者相談 【特別支援教育研究室】

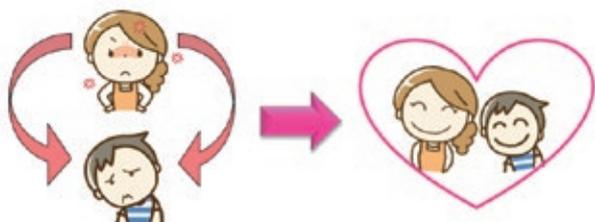
発達障がいのある子どもが、持てる力を最大限に発揮して生活し学習できること、そのための新しい支援法の追求を目的に、特別支援教育研究室を設置しています。



保護者相談、学習支援、ソーシャルスキルトレーニングなど、発達障がい児やその保護者への直接の支援とともに、かかわる保育士・教員のための連続講座や地域支援も実施しています。

## 発達が気になる子どもの子育てを支援する 【子育て支援（看護専門）相談室】

発達が気になる、子育てが難しいなど、診断の有無にかかわらず、子育ての悩み全般について、専門看護師の資格をもつ教員が相談に応じます。また、子どもへの効果的な接し方を学ぶペアレント・トレーニングのグループ講座も開催しています。受講後、「怒ることが減った」、「子どもをほめられるようになって自信がついた」、「子どもが落ち着いてきた」、「仲間と出会えて良かった」、「家族で穏やかに過ごす時間がふえた」などの効果がみられています。



## 子どもの健やかな成長を支援する 【次世代育成支援室】

次世代育成支援室では、将来を担う子どもの健全な育成、そのための地域づくりをめざし、さまざまな事業を行っています。

国見ヶ丘せんだんの杜保育園と共催で親子遊びの機会の提供、『月刊ままばれ宮城版・山形版』への子育てQ&Aの連載、科学ものづくり教室などを行い、乳幼児から学童期のお子さんと保護者に喜ばれています。



## 地域に開かれた相談室をめざして 【臨床心理相談室】

臨床心理相談室では地域援助の一環として、一般の方々を対象にこころの健康の回復・維持・促進のために臨床心理学に基づいた相談支援活動を行っています。また、大学院生（臨床心理学分野）の研修機関も担っています。お子様から成人の方まで幅広い年代の方に来談いただき、子育ての悩みや学校生活における問題、人間関係や性格について等の相談内容に対応しています。



## 【仙台駅東口キャンパス】

# 大人が学ぶ機会の提供

### 通信教育部

福祉系大学としては東北唯一の通信制大学であり、総合福祉学部社会福祉学科・福祉心理学科を開設しています。大学卒業資格、国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士等の取得を目指す学生約2,500人(平均年齢42歳)が学んでおり、卒業後は各分野で活躍しています。

### 生涯学習支援室

本学の教育・研究の成果を広く社会に還元し、社会全体の発展に貢献するために、生涯学習の機会を提供しています。本学学生と一緒に授業を受ける「社会人聴講生」「履修証明社会人コース」や市民のための「公開講座」を担当しています。



### 通信制大学院

総合福祉学研究科に通信制大学院を開設し、幅広い見識と専門性を備えた福祉職・心理職のリーダーを養成。個々の専門性を高め、より高度な福祉探求への意欲に応じています。修了後は修士号が取得できます。

### 311「伝える / 備える」次世代塾

仙台市、河北新報社との協定に基づき、2017年4月から東日本大震災の伝承講座として開設。防災啓発の担い手になる人材を被災地から地域、全国へ送り出すことを目的に、10代後半から20代前半の学生・社会人を対象に年間15回の講座を行っています。



## まちが人を育てる、人がまちを育てる ～仙台駅東口エリアの活性化～

仙台駅東口エリアは、仙台市の中で「住む」・「働く」・「楽しむ」・「学ぶ」が混在した多様なアクティビティがあるまちとして、今後の発展に注目が集まっています。

本学は、エリア内にキャンパスを持つ唯一の大学として「仙台駅東まちづくり協議会」に参画しています。行政・企業・住民が相互に関わり合う中で、学生は近隣企業や住民とともにイベントの企画運営を通し自らを成長させるだ

けではなく、その若い発想と力で豊かなまちづくりに貢献しています。

また、「TFUギャラリー Mini Mori」「仙台元気塾」「学食TFU Cafeteria Olive」でのインターンシップの受け入れや産業福祉マネジメント学科の学生によるプロジェクトチームを結成し、まちづくりの活性化に関わるなど、今後も学生の社会参加や地域との交流、学びの拠点として、その役割を担い、地域に寄与していきます。



# 開放施設

東北福祉大学では、利便性の高い仙台駅東口キャンパスを中心に文化・芸術、健康増進等の施設を市民の方々に開放しています。

## 芹沢銈介美術工芸館

国見キャンパス



1989年に国見キャンパス内に開設。芹沢銈介は型絵染の技法を独自に発展させた日本を代表する染色工芸家である人間国宝。その作品と収集品の数々を紹介しています。国見を本拠地に、仙台駅東口キャンパスにも出張展示を行っています。

## 学食 TFU Cafeteria Olive

仙台駅東口キャンパス



まちに開かれた学食として2019年1月にオープン。ランチやティータイム、ディナーまで、落ち着いたお洒落な空間で食事を楽しめます。「就労継続支援A型事業所」として、障害者就労支援を行う地元NPO法人に運営委託し、障がい者雇用を促進しています。

## TFUギャラリー Mini Mori

仙台駅東口キャンパス



仙台市、河北新報社と締結した協定に基づき、2016年7月に設置。「ミニモリサポーターズ」をはじめとする学生たちが、自治体・企業と連携したイベント運営補助や市民を対象にした自主企画を通し、地域に貢献することを学んでいます。

## 囲碁の杜

仙台駅東口キャンパス



子どもから高齢者まで、囲碁を通じた世代間交流の場として開放しています。対局を通じて礼儀や洞察力を学んだり、総合的思考力や社会性の涵養を高めるなど教育効果があるといわれ、本学学生に向けた授業も行われています。

## 仙台元気塾

仙台駅東口キャンパス



予防福祉の普及と啓発のため、研究成果の事業化及び研究へのフィードバックを行う予防福祉健康増進推進室が運営。クリニカルアートや仕事帰りにも立ち寄れるフィットネス、ヨガなど各種教室を開催し、地域の健康づくりのために大学の研究成果を還元しています。

## 鉄道交流ステーション

ステーションキャンパス



ステーションキャンパス館3階の一角にある小さな展示スペースですが、鉄道マニアを唸らせる企画展を随時展開しています。2019年6月にはブックレット「むかし、秋保まで鉄道が走った。」を発行。廃止された秋保電鉄の魅力を一網打尽に記し、好評を博しました。

## 東北福祉大学と社会貢献

東北福祉大学は、「行学一如（ぎょうがくいちによ）」を建学の精神に掲げ、教育の理念は『自利・利他円満』の哲学を基調としています。この精神と理念のもと、長年にわたり人間力、社会力を持つ人材を世に送り出してきました。

「福祉の対象は人間である」との認識から、他人との関わりを大切に、協力し合う気質を養うことにも力を注いでいます。その方

策の大きな柱として教科外活動、すなわち文化活動をはじめスポーツやボランティア活動等の振興に、全学を挙げて取り組んでいます。

近年は「開かれた大学」「地域社会に密着し、共に歩む大学」との理想を実現するため、子育て支援や高齢者の認知症対策、防災・減災活動、地域共創活動など、多様化・複雑化する社会問題の解決に向けた取組に力を入れています。